

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」鈴鹿校		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1 日 ～ 2025年 12月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2025年 12月 20 日 ～ 2025年 12月 27 日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々に合わせた、丁寧な個別支援	丁寧に個々の発達に合わせた療育を行う中で、更に個々の隠れていた課題をクリアにしていき、より充実した療育に繋がっています。また、隠れていた課題や療育の状況、子育ての助言などの情報も含み保護者にフィードバックしていくことで「家族の困った」に寄り添い家族支援や信頼に繋がっています。	引き続き、スポット的に小集団の活動を行って多面的な視点でのアセスメントを可能にする。また、様々なイベントを企画して事業所利用の楽しみを作っていく。
2	校舎職員の多様性	日本語の療育だけでなく、外国籍児童に対する母国語ポルトガル語での療育の実施。心理士、保育士、社会福祉士。また外国籍職員においても自国での教育や心理の資格を有しており、個々の必要性に応じて療育内容や言語対応と多様に対応が可能となっております。	職員の専門性に磨きをかけるべく、個々に研修等へ参加していく。また、個々以外にも事業所単位で勉強会やミーティングを開き、互いに刺激し高め合う環境を整えていく。
3	立地環境と送迎対応	施設は元コンビニの建物であった為、駐車スペースが十分にあり、送迎される保護者様には余裕をもって駐車していただける。	スムーズな送迎になるようにカリキュラムの調整を行う。また送迎を含み事業所の利用に際し安心安全に利用できるように環境を整えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別支援ゆえの療育の短さ	個々の発達状況に応じた個別支援であり、子どもたちの集中できる時間を考慮すると1時間弱と、どうしても短時間の集中療育となっている。昨年度は、相談事業所への営業成果もあり、見学対応の希望者が増えたが、見学から利用への移行者が増えない状況。	近年は両親とともに終日労働の方も多く、長時間の療育を希望する保護者が多い状況であるが、長時間のグループ療育では個別の課題が見えてこない場合も多い。集団が苦手な児童だけでなく、集団療育を利用しながらも個別課題にしっかり対応できる部分をアピールし、多忙な保護者へも併用利用での希望を増やしていく。
2	事業所認知度の低さ	事業所母体は大きく全国展開になっているが、地域での認知度が低い。相談事業所の業務を併設していないためサービス利用の依頼を受ける状況である。	昨年度より、営業活動を行っている。引き続き、地域の療育センターなど相談事業所への営業を行っていきながら、関係機関との連携や信頼を構築していく。送迎や訪問先の保育所や学校との関係性を更に深め信頼できる事業所として認知度を上げていく。
3	事業所施設の老朽化	元コンビニの古い時期の建物で床などはバリアフリーになっているが滑りやすく冬は冷たい。トイレ設備は段差があり和式トイレ。事業所施設が老朽化して雨漏りなどの状況を直しながら行っている。	トイレ設備などは、対応できる範囲で使いやすい様に工夫している。利用者には上靴の必要あれば自由に利用してよいことを周知していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日				利用児童数		回収数	
こどもサポート教室「きらり」鈴鹿校		2026 年 2 月 14 日				25		22	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見		ご意見を踏まえた対応	
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	22						法令を遵守したスペースを、確保しています。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	21		1		・職員をもっと多くできるはず。		人員数は法令遵守しております。お休みで他の職員が担当したり、希望時間の利用がかなわない場合もありますが、ご理解のほどよろしくお願いたします。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19			3			平屋構造でバリアフリーで、各教室も分かりやすく出入りしやすい。トイレや非常口の案内表示も見える位置です。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	21	1			・床が冷たいので上靴の利用を提案します。		上靴利用は自由です。実際に利用されている方もおりますので、希望者の確認など、ご案内や周知に努めていきます。 毎日職員が、清掃・消毒を行っております。	
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21	1			・文字の理解だけでなく、しっかりと書けるようペンの持ち方の指導など就学に向けての準備が少しずつ出来て安心です。		引き続き、子どもの発達や特性に応じた専門性のある支援に努めてまいります。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	20	1	1				支援プログラムに合わせ、更に個々の発達に合わせた支援内容になっております。	
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22							
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	2			・たぶんそうだと信じています。		必要な項目を適切に選択され計画しております。具体的に分かりやすい内容を記載し支援に必要な項目について丁寧に説明していきます。	
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22							
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19	3					好きな活動を繰り返すことで自信に繋がったり、活動が広がるケースもあります。また、狙いが違う場合もあり、その都度意図を説明していきます。	
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	16	3		3			個人情報保護の観点から、施設の開放や地域交流は行っておりません。	
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	22							
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	21		1				計画作成時には、必ず説明させて頂いております。母国語の文章も追記して対応しておりますが、更に理解できるように丁寧に伝えさせていただきます。	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	6	4	2			昨年度はコーチングの講演会を行いました。日本語対応のみでした。随時、情報提供や提案など家族支援を行っています。交流会も含み勉強会などを検討していきます。	
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	21		1				利用時以外にもLINEやFacebookにて保護者とこまめに連絡を行い体調や状況など共有しています。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20	1	1		・こどもに適したクラス、保育園についての情報をもっと欲しい。		スペイン語で対応する事業所情報が無い状況です。相談員さんと連携して情報提供を行います。フィードバック時には療育内容を丁寧に伝えたり助言しております。	
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22							
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11	2	5	4			昨年度は1回のみ、仕事で忙しい保護者様が多く、曜日や時間の調整が難しい状況ですが、保護者会、交流会を企画して行きます。兄弟参加の企画も検討していきます。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14	2	1	5		面談の希望がある時は、速やかに日程調整して対応しております。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	20	1		1		母国語での意思疎通が可能な職員が配置されております。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	18		3	1		行事予定や活動の様子などブログやFacebookにて発信しております。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20	1		1		個人情報は鍵付きの書庫にて管理されております。また端末データーもパスワード対応しております。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	2	3	2		各マニュアルは策定され、訓練も行われています。再度、保護者様への周知に努めてまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12	3	3	4		安全計画に沿って、避難訓練・防災訓練などを行っております。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	15	1	1	5		安全計画が作成され、定期的に点検を行う等、安全を確保しております。再度、周知に努めてまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19	2		1	・聞いたことがありません。	緊急時の対応方法に関しては、契約時に皆様に説明しております。何かあれば保護者様へ速やかに連絡しております。保育園等の送迎者は保育士等と連携して対応しております。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	22					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	22					
	29	事業所の支援に満足していますか。	22				・もっとグループ活動があつて欲しい。	同じ時間帯の利用者によるスポット的(短時間の)小集団活動は随時行っております。今後、じっくりとグループ活動が楽しめる様な企画を検討していきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
こどもサポート教室「きらり」鈴鹿校		2026 年 2 月 14 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○4	1	個別療育の観点からは、十分なスペースを確保している。対象年齢別に対応する環境を整えている。	個別療育に対するスペースは十分だが、完全個室は1部屋のみ、他パーテーションでの区切りの為教室の音が聞こえる時もある。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○4	1	ポルトガル語と日本語の療育が可能なハイブリッド対応。	外国籍児童の比率が増えたことで日本語の職員が少ない状況。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○3	1	旧式のトイレがバリアフリーではありませんが、幼児用便座の準備などで対応しています。	床が冷たく滑りやすい。上靴の利用は自由ですが低年齢の幼児には上靴などは難しい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		消毒や清掃は、始業前に毎日行われている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別対応の教室は5部屋。おままごとコーナー、絵本コーナーがあります。	完全個室は1室のみ、感覚過敏等の利用者が重ならないように調整が必要。
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○3		各個人単位での業務改善は行われています。外国籍職員とのコミュニケーションを工夫しながら、業務改善に向けた意識づけを行っています。	PDCAサイクルについての理解と周知を徹底していく。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者様へ評価表の記入をお願いし、業務改善につなげています。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		話しやすい環境、関係性に努め、随時、支援環境や教材等を整備し業務改善に努めております。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○3		現在は利用者・社内の2者評価を行っています。	第三者による外部評価については、現在実施の予定はありませんが今後必要に応じて社内で実施を検討してまいります。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的に社内研修が行われ受講しております。また、事業所単位の(研修)勉強会なども行っています。	日本語が話せない外国籍職員は社内研修の参加が難しく事業所単位のみになっています。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムについて適切な方法でごひょうじています。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントを行い、ご本人の状況や家族環境を確認して計画を立てております。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		モニタリング、事業所内担当者会議や支援員間で課題について計画を立てております。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画作成は担当職員と話し合い、課題について共有しています。外国籍利用者には母国語での文章も追記しています。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		統一したアセスメントシートを使用して、毎年アセスメントを行っています。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		必要な項目が適切に設定されています。保護者にも分かりやすい様に、より具体的に内容を記載しています。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○3	1	個別支援が中心の為、各担当職員が主になって行っていますが、活発に意見交換を行っています。	職員間で話しやすい関係性、環境づくりに努めます。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		楽しく参加できるように、工夫しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○4		イベントにて小集団の活動が行われたり、また、同時利用の利用者間で交流を兼ねた小集団での遊びが行われています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○4	1	役割分担、予定を確認しています。支援内容確認は各担当が行うが情報共有、連携して、急な変更にも対応可能にしています。	新しい外国籍職員への配慮やコミュニケーションをこまめに行います。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○3	1	個別支援で担当制ですが、行われた支援に対する子どもの様子や気付いた点について情報を共有しています。	新しい外国籍職員への配慮やコミュニケーションをこまめに行います。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○4		記録作成を徹底しています。記録から課題を見出し支援の改善につなげています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月に1回モニタリングを行い、計画の見直しを行っています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○4		児発管を基本に、担当職員が可能な時は一緒に参加しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○2	1	保育園、学校など関係機関とは情報を共有し連携に努めています。	職員への周知に努めます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○4		保育所等訪問支援を実施しており、関係機関との連携を図っております。また、個別の支援会議などに参加し、情報共有や相互理解に努めております。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○4		就学前に行われる(移行)引継ぎ会議に参加して支援内容の情報共有・相互理解を図っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)	—			
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	—			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	—			
	31	(31は、事業所のみ回答)	○1	1	地域の療育センターが開催される研修や勉強会に参加して助言を受けたり、必要時に相談して助言を頂いております。	職員への周知に努めます。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	個人情報保護の観点から、施設開放や地域での交流は行っておりません。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		フィードバック時には子どもの様子を丁寧に伝えていきます。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○2	2	フィードバック時に助言や情報提供を行って家族支援に努めております。勉強会を兼ねた父母会などを企画していきます。	仕事で忙しい保護者が多く、集まるのが難しい状況です。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○3		契約時に丁寧に説明を行っております。収入や利用者の年齢により負担の変更があり、随時丁寧に説明しています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○3		子どもや保護者の思いに寄り添いながら進めています。	

保 護 者 へ の 説 明 等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○3		支援内容について説明を行い、同意を得ています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○4		フィードバック時に子育ての助言などを行っています。必要時には時間を設け面談を行っています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○2		昨年度は日本人保護者向けのコーチング研修や外国籍保護者の交流会を企画しましたので、今年度も企画していきます。	仕事で忙しい保護者が多く、定期的集まるのが難しい状況です。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○3		相談などの申し入れには、速やかに面談の調整を行っています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○4		ブログやFacebookにて随時、情報を発信しております。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○4		個人情報の書類は鍵付きの書庫に保管しています。端末もパスワード対応しています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○4			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	関係機関としての交流、情報の共有は行っています。	個人情報の観点から、地域住民との交流などは行っていません。
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○3			新しい外国籍職員への周知を徹底します。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○3			新しい外国籍職員への周知を徹底します。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○3		契約時にフェイスシートなどにて聞き取りを行っています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○3		通常支援では食事・おやつ提供は行っていません。イベント時に食べ物提供がある時は、事前確認を徹底しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○3		安全計画に沿って訓練や点検を行っています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○2		訓練の様子など、ブログ等において周知しています。	新しい外国籍職員への周知を徹底します。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットが起こった時は報告書を作成、回覧して職員間で情報を共有し再発防止に努めております。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		マニュアルを作成して、研修を行っています。県主催の研修にも参加しています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束に関しては契約時に重要事項説明書にて説明を行っています。必要が生じた時は新たに十分に説明を行い計画に記載します。	